

生命を生みだす母親は
生命を育て 生命を守る
ことをのぞみます

母親しんぶん

ニュース版
No.7
2026.7.31

日本母親大会連絡会 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内（〒102-0084）
電話03（3230）1836 fax03（3230）1837 ホームページ<http://hahaoyataikai.ai.jp>

第71回日本母親大会in宮城

記念講演

猿田佐世さんの「新しい外交」とは何？



猿田さんは、国連で働きたいという小学生の頃に描いた夢を持ち続け、自由な教育を受けるなかで、夢を実現するために、弁護士の道に進みました。海外での活動ののち、アメリカに留学します。そこで、気づいたのは、日米の外交関係が、日米双方の政府側の考えのみで作られている現実でした。辺野古基地について、沖縄が反対なら、別のプランを検討すべきという多様な声がアメリカにあることを知り、同時に米軍基地の存在に日本人の多くが賛成していないことも伝わっていないことにも気づきました。

そこで、従来の外交では運ばれない声を届けるために、代表となり設立したのが、「新外交イニシアティブ」です。2015年翁長雄志沖縄県知事のワシントン訪問の随行団を企画・同行し、アメリカの国防権限法から、「辺野古が普天間基地の代替施設の唯一の選択肢」削除要請の議員へのロビイング活動、集会を粘り強く展開し、その文言を削除することに成功しました。初めて、外交関係者以外の力で法案を変えさせたのです。こうした少数者の声を届けることが、外交にとって重要なことだと猿田さんはこの仕事に持ち前のパワーを注いでいます。

現在、ウクライナ、ガザ、イランと、戦争が拡大し、国連憲章は歯止めにならないのかと、私たちの間には不安やモヤモヤがあふれています。どうしたら平和を作れるのか。猿田さんは、戦争を止めるためには外交しかないといいます。それも政府レベルだけのものではなく、政党、官僚、知識人、そして市民社会による外交が必要です。日本全土の戦場化を想定した従来の外交では、平和は作れないと、民主的で、少数者の声を届ける外交の分野を開拓している猿田さんは、対米従属でない日米関係をつくれる、必ず声は届くと精力的に日米を往復し、活動をしています。猿田さんの明解な情勢分析と行動を聞き、平和への道に少しでも希望がもてたらと期待しています。

（「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナール

棚橋昌代）



第 65 回茨城県母親大会

必ず平和憲法を守らなければと

6月7日、県南の田園地帯に位置する稲敷市あずま生涯学習センターで、第65回茨城県母親大会が開催され、公共の交通手段がないにもかかわらず、県内各地から520名が参加しました。



地域母連のない稲敷ですが、毎回の県母親大会には、マイクロバスを満席にして参加していました。「これまで参加するだけだったけれど、迎える側になって、稲敷のことを知ってほしい。稲敷の街おこしにもなれば」という岡野千恵子実行委員長の熱い思いで開催することになりました。稲敷のほか、近隣の阿見、土浦、かすみがうらの4つの地区で現地実行委員会を立ち上げ、実行委員を務めた人たちから、「実行委員としての活動で裏方の大変さがよくわかった」「稲敷では継続してこのメンバーで実行委員会をやっていこう」などの声があがっています。

今大会のメインは松元ヒロさんのソロライブ。笑いの中にも鋭い風刺が織り込まれた演技に、爆笑と賛同の拍手が続きました。「憲法くん」の迫真の演技から、必ず平和憲法を守らなければと思いを新たにしました。

農業が主な産業の稲敷市での開催。是非、農業問題をと「茨城の農業を考える」リレートークを企画しました。農業に携わっている5人の方々の発言から、農業に対する熱い思いや苦労の様子など農家の実態を知ることができ明日への励みになりました。

現地の名産や農産物などを販売する物産交流や、「あんば囃子」のオープニング、「笑いヨガ」、各団体からの「茨城からの発信」、「みんなで歌おう」など盛りだくさんの企画でしたが、「大会宣言・特別決議がよくまとめられていて私たちの気持ちとぴったりで嬉しくなった。そうだなあ、励まないと。」という感想が寄せられ、大会事務局としてとっても嬉しかったです。

茨城県母親大会 長坂法子



2026 宮崎県母親大会

戦争する国づくりが進められている今こそ

集まって話し合おう



6月14日に開催、380人が集まりました。

記念講演は土佐町の現職町議で教育研究者の鈴木大裕さんです。新自由主義の中で学校・教師はサービス提供者、子どもと親は消費者、教育委員会は消費者のためのサービスに徹するという、教育をお金で買う仕組みになっていると指摘し、学力向上や生活指導のマニュアル化が進み、「人を育てる」機能が失われていくとして、学び方や学ぶ喜びを教える、生きる喜びを分かち合うことを学校に期待すると述べました。

教師の休憩時間など労働基準法が守られていないことを明らかにする質問、地方議会から国を動かすアクションなど現職議員ならではの報告もあり、たくさんの質疑応答で盛り上がりました。

成見幸子実行委員長は、「経済の競争システムで教育が損なわれ、戦争で子どもの命が失われる中で武力での支配ではなく対話をと述べ、武器輸出、9条改憲、戦争する国づくりが進められている今こそ集まって話し合いましょう」と呼びかけました。

9団体のアピールは1年間の活動の状況がよくわかり、大きな拍手が続きました。8つの分科会はどこも盛況でした。

初めて参加した人が、「見るもの聴くものに感動し、たくさんメモした」、「現場や組織の活動報告も、あんな活動があるのも初めて知りました」と言われたことに、県内の各団体が集結している母親大会のだいご味を感じます。

ラインを目いっぱい活用した実行委員会の取り組みが大会成功につながりました。

宮崎県母親大会 田爪方子



第70回和歌山県母親大会



松元ヒロ氏の

「政治・世相斬りライブ」で、
みんな元気に！

6月14日（日）、和歌山市内で第70回和歌山県母親大会を開催しました。

午前中は、「子どもと教育」「食と農」「平和」「セルフリンパマッサージ」など、8分科会に分かれて学習・意見交流・活動を行いました。中でも、助言者に中央医療生協の方を迎えての「高齢期の健康と生活&介護制度」分科会が大人気となり、大急ぎで追加の椅子を入れるやら、レジメをコピーしに走るやら、てんやわんやとなりました。また、「とことん話そう！母親大会（運動）の来し方行く末」分科会では、日本母親大会の今後のあり方をめぐる論議を意識しながら、「今後の和歌山県母親大会・運動をどうしていくか」について、熱心な意見交換の時間となりました。「会や運動が一つの節目を迎えることがあっても、『運動に終わりはない』『日々の暮らしの中で、周りの人と関わりながら自らの生き方を重ね合わせて、命を大切にする運動に取り組んでいくことが確認された」と、司会者の報告にありました。

午後の全体会は、去年の「日本大会 in 東京・全国のたたかい」のDVD視聴、みんなで歌おう、各地の運動交流など多彩な構成になっていました。中でもメインの記念公演が圧巻でした。「テレビで会えない芸人 松元ヒロの『政治・世相斬りライブ』」と題しての、芸人の松元ヒロさんのお笑いライブでしたが、65分間、松元ヒロさんが繰り出す言葉と形態模写の芸に、会場中笑い通しでした。爆笑の渦でした。松元ヒロさんが、「権力者たちのおろかしい言動を、笑っちゃいましょうよ。心の底から笑いましょうよ」と言って、笑いを引き出していました。しかも、それはただのお笑いではなく、世界の状況や日本の政治情勢に迫る内容からホモサピエンスが生き残れた理由にまで触れる内容でした。アンコールに応じて最後に演じたなりきり「憲法くん」は、前文も各条文もよどみなくそらんじて圧巻でした。参加者は会場いっぱい、補助いすを入れても足りず立ち見もいて、男性も多く参加していました。笑いは心も体もリフレッシュさせ明日の元気を引き出す、そんな時間でした。

和歌山県母親大会連絡会



第71回京都母親大会

市民の動きが国際世論にも 影響を与える時代

6月21日、第71回京都母親大会は、オンラインも含めて550名の参加でした。物産展もにぎやかに開かれ、午前中は4つの分科会「こんな学校だったらいいのになあ～子どもたちの現状から話し合おう～」「病院がなくなる？～社会保障の削減は許さない～」「ジェンダー平等の社会をめざして～声をあげてきた女性たち～」「気候危機を語ろう～暮らしの中から～」はどこも満員で、話し合い・学習を深めました。保育には、小1の子どもさんの参加がありました。



午後は全体会で、京都大学・憲法9条京都の会の代表世話人高山佳奈子さんの「憲法生かして一人ひとりが輝く社会を！」と題した講演でした。「今の社会に対してどういう思いでいるか、それに答えるにはどうしたらよいかと学生たちに問いかけている」「唯一の戦争被爆国として平和への使命があること、9条改憲の動きがあるが、法的に9条だけ変えることはできない」などと話されました。「日本の世論が右傾化しているのであれば、右翼政策が大きな支持を得られるはずだが、そうっていない。今、市民の動きが国際世論にも影響を与える時代。仲間とデマでない情報を共有し、ウォークやデモなどできることをやっていきましょう」と訴えられました。

運動の交流は7つの地域団体からコントやズーム参加で盛り上がりしました。大会アピールと「憲法こわすな！二度と戦争は許さない！」の特別決議を採択して、全員で元気に歌って大会を閉じました。

京都母親連絡会

中尾 牧



第63回佐賀県母親大会



私たちの暮らしとメディアのあり方

～前川喜平さん～

6月28日（日）、第63回佐賀県母親大会を無事に開催できました。午前中は「平和」「教育」「暮らし」の3つの分科会。「平和」では、＜戦争は嫌！憲法9条を守る・・・＞をテーマに「憲法って、何？」「どうして閣議決定で決まるの？」「徴兵令って、出てくるの？」など会場からの発言をもとに会を進行し、最後に助言者の前川喜平さんにコメントをもらうという新しい試みでした。たくさんの発言があり、前川さんのわかりやすく適切なコメントに参加者はとても満足していました。「教育」はボイス（被害者ネットワーク）副理事長の岩永絹子さんに「包括的性教育」について、性暴力や性的同意の大切さなどを話してもらいました。参加者は初めて聞く内容にとっても驚いていました。「暮らし」では、民商副会長の宝蔵寺一宏さんから「税金のしくみ」や消費税を下げることの大事さを学びました。午後の全体会ではオープニングにうたごえ合唱団による（平和の歌）―「いますべきことは」「そんな町を」「勝利の朝を信じて」「わたしをほめてください」の4曲。どの曲も今、歌わなければならない曲ばかりでした。特に最後の曲は「憲法9条」の私、今まで戦争が起きなかったのは私がいたからです。わたしをほめてくださいという内容。9条の条文の朗読には思わず、こみ上げてくるものがありました。記念講演の講師は再び前川さん。「私たちの暮らしとメディアのあり方～あなたの情報は大丈夫？」と題しての講演会。「裏話が面白かった」「とても勉強になった。騙されない力を養う必要性を感じた」「SNSは新しい金券政治と聞いて納得した」「メディアの劣化はひどいと思った」等の感想がありました。最後は各団体からの一言発言。医療や教育現場の大変な様子、女性の低賃金、低年金について、いろいろな分野の大変な様子が伝えられました。260人超の参加。昼休みのバザーや地域の物販もおおいににぎわいました。